

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	高級アパートの命名法
Author(s)	橋内, 武
Citation	ニダバ , 5 : 71 - 74
Issue Date	1976-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046314
Right	
Relation	



高級アパートの命名法

橋 内 武

1. はじめに

〇〇マンション、メゾン〇〇といった名前の付いた高層共同集合住宅がある。多くの場合エレベーター、ガレージ付きであり、セントラルヒーティングや全館給湯設備もしてあるという触れ込みである。

そういう高級アパートは、中流階層にとって、昭和30年代にあっては高嶺の花であったが、40年代には、わが国の経済成長に乗って大衆化した。(高層住宅研究会編『マンション百科』読売新聞社、1975、第1章参照)そして、「マンション」は、聞き慣れぬ語から生活に身近な語へと転じたのである。

ところで、カタカナ語は一般に高級イメージを創り出すために使われるが「マンション」(西洋長屋=アパートのなれのはて?)のネーミングもその例に洩れない。(久保田孝、『ネーミング』オリオンブックス、1967、pp. 51-61参照)

本稿の主眼点は、外来語研究の一環としてさまざまなマンションのフルネームを取り上げ、その構造を分析することにある。

2 資 料

資料として用いたのは、『昭和50年版東京都23区の職業別電話帳(産業編上)』である。索引で「マンション」を引いてみると、アパートの項と貸ビルの項に載っていることが分る。アパートの項には、今井花子・山田正男といった屋主の個人名が出ていることもあり、南風荘・あかつき荘といった「〇〇荘」式のものや、弥生アパート・大内アパートといった「〇〇アパート」式の類も掲載されているが、これらを一応高級アパートないしはマンションではない、と見做し除外した。またマンションのいくつかは、貸ビルの項にも載っているが、ここではその住宅機能に着眼点があるので、その方には一切手を付けなかった。

3. 5つの要素

こうして都内のマンション名を900余りカード化した結果、そのフルネームは、次の5つの要素(形態素)から成り立つ「複合語」であることがわかった。

P (Place) : 渋谷, 代々木, 麻布などの地名。

A (Agent) : 秀和や藤田などの施主・経営主体。

N (Original Number) : 第1, 第2などの序数。

M (Modifier) : スカイ, フラワ, ゴールデンなど主要語を修飾するもの。

H (Head) : マンション, メゾン, ハイムなどの主要語

4. 主要語 (Head) と修飾語 (Modifier)

一般にマンションのネーミングというと、主要語または修飾語と主要語の組み合わせたものが何であるかが話題に上る。そこで先ず主要語 (H) に当るカタカナ要素を原語と対照させ、もとの意味を記してみよう。(但し、以下の記述は、決して主要語を全て網羅するわけではない)

アビタシオン	habitation (仏)	(一般的)な住居
アネックス	annex (英)	別館
アパートメント	apartment (house) (英)	共同住宅(の一室)
アレイ	alley (英)	小路, 街路
アンバサダ	ambassador (英)	大使
エステート	estate (英)	邸宅
カサ } カーサ }	casa (伊・西)	家
キャッスル	castle (英)	城
クレスト	crest (英)	頂上, 峰
クォーターズ	quartiers (仏)	住所, 宿所(軍隊用)
コープ } コーポ } コーポラス }	cooperative house (英)	共同住宅
コート	court (英)	邸宅
シャトー	château (仏)	城
スカイスクレーパー	skyscraper (英)	摩天楼
タウン	town (英)	町
ドエル	dwel (英)	住む (動詞の名詞化)
ドエリング	dwelling (英)	住居
ドミ } ドミール }	demeure (仏)	住居
ドルフ	Dorf (独)	都市, 村
ドミトリー	dormitory (英)	寮, 宿舎
ハイツ	heights (英)	丘, 高さ
ハイム	Heim (独)	家
ハウス	house (英)	家
ハウジング	housing (英)	住居, 住宅
パレス	palace (英)	宮殿
ハイライズ	highrise (英)	高層集合住宅

ハビテーション	habitation (英)	居住, 住宅
パラッツォ	palazzo (伊)	宮殿
ピロティ	pilotis (仏)	杭, 建築様式の一つ
ビレッジ	village (英)	村
ファミリー	familier (仏)	家族的な(形容詞の名詞化)
プラザ	plaza (英)	広場(のある建物)
マンション	mansion (英)	大邸宅
メゾン メイズン	maison (仏)	住宅, 館
レジデンス		
ロッジ	lodge (英)	(田舎風の)家

このように並べて分ることは、主要語として用いられているのは、原語において

- (1) 住居・住宅の類をさす名詞
- (2) それ以外の生活空間(庭園, 広場, 道路, 村など)をさす名詞が多い。

さて、修飾語(M)の方はどうだろうか。筆者に気付いたのは

- (1) 色彩名を表わすもの: ブルー, グリーンなど
- (2) 植物名を表わすもの: カトレア, パイン, メタセコイアなど
- (3) 高級イメージを駆り立てる種々の語: プリンス, ロイヤル, グランド, ゴールデンなどである。

5. 要素の組合わせ

さて、少し横道にそれたが、これら5つの要素がどのように組み合わせられて、マンションのフルネームが1つ1つ出来上っているのだろうか。

組合わせの上で単純なものから始めよう。先ず、フルネームが1つの要素からだけで成り立っている場合。—これには、「フレンド」とか「ペガサス」といった例があるが、要素Mが1つあるだけであり、Hが付かぬため、どういう種類の建造物か見当がつかない。喫茶店、レストラン、バーのいずれかに早合点してしまう恐れが多分にある。このようなネーミングは紛しく、問題であると思う。なお、PやAやNが単独で用いられる例はない。

2つ以上の要素から成る場合には、必ずHが付いているようだ。2個の組合わせの実例は、実に多いが、数学的には次の8つが考えられ得る。

P+H: 常盤台マンション, 山王ハイツ, 山王ピロティ, 赤坂コーポラス, 広尾ロッヂ, 六本木フラットなど。

A+H: 阿部マンション, 赤坂コーポラス, 前田ハイツ, 赤坂ロッキング, 友和アパートメント, 玉石

ビルなど(「〇〇ビル」という名は、機能上貸ビル、貸事務所を予想するから、前述のMタイプ同様紛わしいネーミングである)

N+H: 第1マンション(見かけの上では確かに序数であるが、意味上「最上(級)の」ものを連想させる)

M+H: ブルーマンションズ, ロイヤルマンション, ゴールデンマンション, カトレアハウス, グランドマンション, サンハイツ, プリンスヴィラなど。

上記のようにHが後置されるものは、商店の屋号(高島屋, 松阪屋, 成田屋など)にも準じ、日本語本来のものと思われる。が、下に記すようにHが頭に来て、他の要素が後に付く場合もある。ただし、これにはN+Hの組み合わせはない。

H+P: カーサ常盤台, ハイム田園, マンション市ヶ谷, ドミール高輪, メゾン平河, エトアール代々木など。

H+A: ハイツマツモト, ビラ岡田, メゾン三晃, ロッジモリ, ファミリアスガ, アパートメント高野など。

H+N: なし。

H+M: ハイツやまびこ, アパートメントシラカバ, ヴィラソレイユ, マンションフロール, コープオリンピアなど。

3つの組み合わせ, 4つの組み合わせについて記したいが紙幅が尽きた。数学的には、要素を増やしていけばいくほど、組み合わせの種類は増えるけれども、データの上ではそうはいかないようである。4つの組み合わせの場合には、Hが頭位に来ることはないし、5つの組み合わせの例は皆無である。このあたりが、「高級アパートの命名法」の面白い問題点であるが、いずれ稿を改めて述べることにしよう。(未完)

本稿は、1975年9月21日に広島大学文学部で開かれた西日本言語学会で口頭発表したものに基づく。